

社会教育施設（二上まなび交流館、青年の家）のあり方について

高岡市公共施設再編計画

- ◆二上まなび交流館 ⇒ 短期（H30-H34）で方針決定
- ◆青年の家 ⇒ 長期（H40-H47）で廃止

高岡市教育将来構想検討会議 社会教育・生涯学習小委員会の今後の進め方

① 現状の把握

- ・現状と課題の整理
- ・類似施設等との状況の比較

② 方向性の検討

- ・管理運営（採算性、持続可能性）
- ・施設機能

③ 方針決定（答申）

- ・施設の存廃
- ・能舞台の取り扱い 等

反映

二上まなび交流館

【方針】

- ・施設の存続・廃止
- ・機能面の確保
- ・運営方針 等

青年の家

【方針】

- ・廃止の方法
（解体、民間譲与等）
- ・能舞台の取り扱い 等

二上まなび交流館の今後の方向性の検討

【高岡市の現状及び財政面における課題】

- ・ 約40億円の構造的な「歳出超過」、公債費の増加に伴う将来的な財源不足。
※高岡市財政健全化緊急プログラムでは2023年度当初予算編成時までの収支均衡を目標としている。
- ・ 公共施設の総床面積を2035年までに15%削減することを目標としており、施設の更新、建て替えは困難。

①管理運営

現状と課題

- ・ 施設の老朽化に起因する修繕が多く、今後は更なる大規模修繕が見込まれる。耐震工事は実施済。
- ・ 夏期の稼働率は高いが、冬期（1～3月）の利用は少ない。
- ・ 主に青少年を対象とした施設であることから低廉な料金設定となっている。
- ・ 利用料無料のオートサイトキャンプ場を設置。県外からの利用者も多く、青少年施設とは言いがたい状況。

検討の方向

- ・ 民間活用による経営改善
- ・ 受益者負担の見直し
- ・ 赤字削減 等

②施設機能

現状と課題

- ・ 高岡市公共施設再編計画では「短期（H30-H34）で方針決定」とされている。
- ・ 平成31年度で築50年が経過。（耐用年数60年）
- ・ 青少年の健全育成を担う団体の事務局が入居。
- ・ 機能面において市内に代替施設はない。

検討の方向

- ・ 代替機能の確保（市内もしくは広域）
- ・ 大規模修繕等による長寿命化 等

青年の家の今後の方向性の検討

【高岡市の現状及び財政面における課題】

- ・ 約40億円の構造的な「歳出超過」、公債費の増加に伴う将来的な財源不足。
※高岡市財政健全化緊急プログラムでは2023年度当初予算編成時までの収支均衡を目標としている。
- ・ 公共施設の総床面積を2035年までに15%削減することを目標としており、施設の更新、建て替えは困難。

①管理運営

現状と課題

- ・ 低廉な料金設定で駐車場もあるため、学習・文化・芸能活動等、多くの市民に利用されている。
- ・ 一方で施設管理に見合う分の収入は確保されていない。
- ・ 廃止までの管理運営方法。

検討の方向

- ・ 民間活用による経営改善
- ・ 受益者負担の見直し
- ・ 赤字削減
- ・ 能舞台の効果的な活用 等

②施設機能

現状と課題

- ・ 高岡市公共施設再編計画では「長期（H40-H47）で廃止」とされている。
- ・ 総ヒノキ造りの本格的な能舞台が併設。
- ・ 能舞台移設には多額の費用（概算で3億円）が必要。また、移設場所は体育館相当の規模が必要。

検討の方向

- ・ 能舞台の取り扱い
- ・ 利用者の受け皿となる代替施設 等